

6月11日から



新議会が始まりました！

（任期：2019年6月11日～2023年4月30日）

統一地方選挙で日本共産党市議団は、現有5議席から6議席獲得に全力で奮闘しましたが、2名が落選となり4議席にとどまりました。掲げた公約実現のため、引き続き頑張ります。

野口議員副議長、まつお議員民生常任委副委員長に

6月11日より新議会がはじまりました。6月18日からの定例会冒頭に議会役職選挙が行われ、日本共産党市議団から野口あけみ議員が副議長に、まつお正秀議員が民生常任委員会の副委員長にそれぞれ選ばれました。日本共産党市議団からの副議長選出は10年ぶりのことです。

一般質問には初当選したひぐち光冬議員がさっそく立ち、「義務教育学校」「跳ね橋」「香櫞園駅前の喫煙問題」等を質問。当日は大勢の傍聴者が参加し、初質問とは思えないほど堂々たるものでした。まつお正秀議員は

「UR借り上げ市営住宅」「コミュニティ交通」について質問しました。

当局から10月からの消費税増税に伴う低所得者対策として、3月予算に続いてプレミアム商品券についての補正予算が提案されました。財源はすべて国ですが、子育て世帯や低所得者対策にはまったく効果がないと党市議団は補正予算に反対。増税を中止することこそ、低所得者対策です。

一般質問の内容は裏面をご覧ください

今年も、広島へ…
平和行進

「核兵器のない平和で希望ある世界を！」と、1958年以来毎年日本各地から広島に向かって歩き続ける平和行進が7月9日、西宮市を通過しました。

党議員団からも全員が行進に参加。一日も早い「核兵器禁止条約」の発効と日本政府の参加を願いました。

また、石井市長から激励のあいさつがありました。



写真左より佐藤、まつお、野口、ひぐち各市議会議員

●会派別議員名簿(41人) (五十音順、○は幹事長、○は幹事)

政新会(9人)

うえだ、大石、かみたに、○川村、坂上、○篠原、○田中(正)、やの、吉井

公明党議員団(8人)

大川原、大原、町田、松田、○松山、八代、山口、○山田

会派・ぜんしん(6人)

大迫、○菅野、草加、○澁谷、たかの、八木

維新の会西宮市議団(5人)

江良、多田、谷本、○福井、脇田

市民クラブ改革(5人)

○岩下、河崎、中尾、花岡、宮本

日本共産党西宮市会議員団(4人)

○佐藤、野口、ひぐち、まつお

無所属(4人)

一色、河本、田中(あ)、よつや

党議員団・委員会などの担当



野口あけみ

- 団長
- 副議長
- 総務常任委員



佐藤みち子

- 幹事長
- 議会運営委員
- 健康福祉常任委員
- 都市計画審議会委員



まつお正秀

- 民生常任委員会
副委員長



ひぐち光冬

- 教育こども常任委員
- 社会福祉審議会委員

一般質問

日本共産党2議員が質問に立ちました

6月
議会



まつお正秀



早急に訴えを取り下げよ

まつお正秀議員はまず、UR借り上げ市営住宅問題で質問。市が退去を求めて訴えた住民7世帯に対し、神戸地裁尼崎支部で住民敗訴の判決が下され、弁護団はただちに控訴したことを紹介。また、神戸市の同様の裁判では最高裁で神戸市勝訴が確定したが、現実には住民退去を強制執行できない状態となっていることも紹介。本市が仮に最高裁で勝訴しても神戸市と同様の事態になる可能性が高いことを指摘し、訴えを取り下げ話し合うべきと追及しました。市長は、住民に寄り添う努力をしたいというものの、訴訟については言及しませんでした。まつお議員は初めからボタンのかけ間違いがあったことが問題の本質であり、早期解決の必要性を訴えました。

市南部の交通不便地域解消に コミュニティバスを

続いてまつお議員は、交通不便地域問題を取り上げ質問。北部地域では住民の運動もあってコミュニティバスの運行が進みつつあるが、特に南部地域北側で要望が強いことを紹介し、コミュニティバス運行の努力を行うよう求めました。

当局は住民運動の段階に応じて側面的支援を引き続き行うという答弁に終始。まつお議員は、全国的に赤字路線が多いコミュニティバスについて、「赤字」というとらえ方ではなく、「地域を支えるための費用」として位置付けるように強く求めました。



ひぐち光冬



拙速すぎる

西宮浜小中一貫校の開校は 延期すべき

「小中一貫校」について、市は2020年度から西宮浜で現小中学校を統合し、1~9年生までの小中一貫校を開校させる方針ですが、問題は山積み。ひぐち光冬議員は一般質問でこの問題を追及しました。

例えば、小中一貫校になれば5・6年生が現中学校校舎に移り50分授業になる予定ですが、そうすると他校の5・6年生よりも年間で100時間も授業時間が増えることに。また一貫校になれば“教員が多忙化する”と過去の研究で明らかにされていますが、市はその事実を隠し、むしろ「負担が軽減する」と誤った情報を流しています。さらに、先進的に一貫校教育を進めてきた品川区やつくば市ではすでに“一貫校撤退モード”に入っているという事実もあります。これらの問題を深く調査することなく行政主導で開校を急ぐ態度を厳しく批判し、開校の延期を求めました。

駅前の喫煙は規制すべき

香櫞園駅前には灰皿が設置されており喫煙者が多く、駅の利用者は受動喫煙を余儀なくされていました。この状態を改善すべくひぐち議員は、「駅前喫煙の規制」を強く求めました。

今回の質問を通して、この7月から施行の新・兵庫県受動喫煙防止条

例を受けて、灰皿が撤去されることが明らかになりました。また撤去後のフォローとして、喫煙マナー指導員の配置も約束。さらに香櫞園駅だけでなく、その他の喫煙状態がひどい駅に関しても同様の対応をとるとしました。

7・21 参議院選挙

改憲勢力

「3分の2割れ」



足りない年金や、消費税増税など、暮らしに関する問題が争点となった参議院選挙。日本共産党は、「減らない年金」をつくる提案や「消費税に頼らない別の道」を示す財源案などを提起し、奮闘しました。

日本共産党の結果は、選挙区で兵庫では議席に至らず、大阪で現職議席を失ったものの、東京、京都で現職議席を守り、埼玉で21年ぶりに新たな議席を獲得し現有3議席を確保。比例代表選挙では、改選5議席から4議席に後退しました。

参議院選挙全体の結果できわめて重要なのは、自民・公明・維新などの改憲勢力が、改憲発議に必要な3分の2を割ったことです。

安倍首相は、この結果を受けてもなお、総裁任期中に改憲を実現するとしていますが、参院選で下された「3分の2割れ」という審判は、「期限ありきの性急な改憲の動きは賛成できない」という民意を示したものにほかなりません。

この結果をつくるうえで、市民と野党の共闘は決定的役割を果たしました。全国32の1人区のすべてで野党統一候補を実現し、10選挙区で大激戦を制して勝利しました。野党が、1人区で改選2議席から10議席へと躍進したことは、大きな成果です。

日本共産党は、今後も市民と野党の共闘をさらに大きく発展させ、公約実現と新しい政治をつくるために力をつくす決意です。

党議員団提案の 「日米地位協定の見直しを 求める意見書」 全会一致で採択



7月8日、西宮市議会本会議で、日本共産党市議団が提案した「日米地位協定の見直しを求める意見書」が全会一致で採択され、国に提出されました。防衛に関する意見書が全会一致で採決されたのは初めてのことです。

全国知事会では2018年7月、日米地位協定を抜本的に見直すこと等を盛り込んだ米軍基地負担に関する提言を全会一致で採択。この提言を受け、7道県197市町村議会が地位協定の改定を求める意見書を採択しています（2019年6月18日現在）。

意見書は、航空法や環境法令等の国内法があるにもかかわらず、それが適用されず、在日米軍に自由に訓練等ができる特権を与え、米軍基地のある諸外国と比べても主権国家としての権利が損なわれていることや、日米地位協定は1960年以来の締約以来一度も改定されておらず、国内法の適用や自治体の基地立ち入り権もないことを指摘し、日米地位協定を抜本的に見直すことを求めています。